奴隷の教訓

安岡章太郎

奴隷の教訓

安岡章太郎

■著者略歴

大正9年5月30日高知県に生まれた。昭和23年慶大英文科卒業。昭和28年「悪い仲間」「陰気な愉しみ」で芥川賞，昭和35年「海辺の光景」で芸術選奨，野間文芸賞をうけた。昭和35年11月ロックフェラー財団のまねきで渡米留学，テネシー州ナッシュヴィルに半年間滞在した。最近の著書に「アメリカ感情旅行」「花祭」などがある。

現住所＝東京都世田谷区玉川尾山町133

奴隷の教訓

昭和三八年四月一〇日第一刷発行

定価 六二〇円

著者 安岡章太郎

発行者 高橋謙

発行所 株式会社 白鳳社

東京都千代田区神田神保町一の二〇
電話・東京二九一局一八三六五番
振替口座番号・東京九二二四一番

（乱丁、落丁のものは本社にてお取り替えいたします。）

印刷・大文堂印刷株式会社 製本・和田製本所

© Syotaro Yasuoka 1963

<検印廃止>

奴隷の教訓

安岡章太郎

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

奴隷の教訓・目次

奴隷の教訓……9
天は人の上に人をつくらず人の下に人をつくらず 10　居直る根性をやしなうべし 15　天はみずから助くるものを助く 20　ツマミ食いを恥ずるなかれ 26　「先生」とよばれてはばかることなかれ 32　チップは屁の音も消すものなり 37　タダほど高いものはない 42　薄利多売はトクなりや 47　魔性のサービス 53　欺くは欺かるるもとなり 59　過ぎたるは及ばざるがごとし 65　棄てる神あればひろう神あり 70　先んずれば人を制す 76　奴隷天国論 80

怠けものの天国……87
僕の少年時代 88　オヤジとセガレ 92　時計の由来 95　ゼニガメ 98　へび 100　僕の青春時代 104　怠けものの読書論 108　殴られるあいつ 111　めまぐるしい変転 114　新しいタタミと古いタタミ 117　亭主残酷物語 120　お日さまの国

のありがたさ 123　詩人と建築 127　西洋館 129　ガマン指数 133　食べる情熱 136　アテにならぬもの 141

海のむこうの話……147

自動車をならわざるの記 148　アメリカの〝渋い〟153　喫茶店と洗濯屋 157　アメリカ的な味 161　インスタントを憎む 164　アメリカの本屋 167　パーティーの憂鬱 171　宣誓式 175　大同小異 181

わが糞尿譚……187

恐妻心理学……201

モン・パパの記……217

あとがき……228

装幀／益宮雉彦

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.co

奴隷の教訓

天は人の上に人をつくらず人の下に人をつくらず

この言葉を僕は信用している。「人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」――これは道徳のおしえではない。きわめて現実的な観察なのである。現実的、つまりソロバンずくの考えからおしても、人の上に人はないし、人の下に人はないのである。

僕は女房が女中をやといいれることに賛成でない。これは無論、僕の収入が不定で、女中さんをやとうどころか、親子三人の家族が明日にも路頭にまよう危険があるためだが、それ以上に、やっぱり人の下に人をつくりたくないためである。それを僕は道徳的に怖れているのではない。現実の問題として怖れているからである。

ちかごろは女中という呼び名はすたれて、「お手伝いさん」とか何とか呼ばれているらしい。けれども何と呼ぼうと、個人の家で下働きを専門にするこの職業は、つまるところ奴隷である。いやしまれてしかるべきものだ。

こういうことをいうと、僕はいかにも時代おくれの封建的な人間におもわれるかもしれない。

しかし、女中が奴隷であるというのは封建的な考えではないのである。むしろ封建時代の女中は卑しむべきものではなかった。「女中」はそれなりに立派な職業であり、立派な呼び名だった。身分の差別がなくなった現代だからこそ、それが卑しまれなくてはならなくなったのである。

それはさておき、どういう理由で、人の下に人をつくってはいけないかということをお話ししよう。簡単にいって、それは女中たちがかならず僕らに復讐をもくろむからである。どんなに柔順で正直そうに見えても、かげではきっとなんらかの陰謀をくわだてている。いちばん簡単な例をしめすと、僕らは軍隊にいたころ、気に入らない下士官の飯には、こっそりフケが落としてあった。フケは七分づきの薄黄色い飯の中でまったく目立たないので、どんなに疑いぶかい軍曹でも、食べてみるまでは気がつかないのである。かりに気がついても、フケがいつどこで、どんな具合に入れられたかを発見するのは、容易なことではない。内務班で入れられたか、炊事場で入れられたか、食糧倉庫の米俵の中に入れられていたか、結局のところはっきりしたキメ手をつかむことは、ほとんど不可能にちかいのである。

これは、ほんの一例にすぎない。やろうとすれば、まだまだいろんなことができた。下着にそっとノミやシラミを入れておくこともできたし、食器を小便で洗って塩分を補給させることだってできた。要するに、やろうか、やるまいか、決心一つで、軍隊のように反逆罪の罰則が厳重に

はりめぐらされていたところでさえ、上官に対する復讐は簡単にできたのである。無論、一番効果的なのは戦線で、うしろから鉄砲を打つことにちがいない。

しかし、僕が女中の復讐を怖れるというのは、何もこうしたことがあるからというわけではない。

実際に、うしろ弾を撃ったり、フケ飯を食わせたりするのは、どんな理由があったにしても、兵隊の中でもごく性質の良くない連中のすることであり、大多数の者はやろうとすればできると思いながら、どんなに腹の立つ上官に対してもそんなことはしなかった。しかしまた大多数の兵隊が心の中では、そういうことをやってみようかな、と一度ぐらいは考えたこともたしかである。考えるけれどもやらない、やらないでただ上官のすることを、じっと見ている。そして「某中尉は毛ジラミをわかして気ヲ付ケの姿勢もできないほどだ」とか、「某軍曹はゆうべも慰安所でフラれてかえってきた」とか、仲間うちの兵隊に報告しあってよろこぶのである。つまり、主人の一番醜いところ、一番ひとに見られたくないところを、いちはやく見破って、同僚たちの間に吹聴して歩くことは、たいして程度が悪くない連中でも大抵はやるものである。これは女中であると兵隊であるとを問わず、ひとに使われている連中に、ごく普通に見られる傾向だ。しかしかりに、もっと上品な、もっと利口な、もっと口の固い兵隊や女中がいたとして、彼らが上官や主人

の私生活に関するいっさいのことを、誰にもいわずに黙っていたとする。ところが、彼らがどんなに上品な性格であろうとも、主人の醜態を見ることだけは見てしまうのである。そして墓に入るまで、じっとそれを記憶しているにちがいないのである。

むかし林芙美子女史は、女中に化けて知名人の家庭に入りこみ、その内状を文章につづって発表したそうである。これはたしかに、いまやっても成功する方法にちがいない。政治家や、映画スターの生活が、この方法で暴露されたものがあったら、誰でも読みたがるにきまっている。つまり、われわれ庶民は、映画スターや政治家に対して、好むと好まざるとにかかわらず、奴隷の位置におかれているからである。

同じようにして、僕らが女中を置けば、僕らの他人には見せたくないところは、洗いざらい彼女らに見られてしまうだろう。運が悪ければ、それは文章や写真に記録されて、広く世間にバラまかれることになるだろうし、すくなくとも近所となりの女中の口から口へつたえられることを覚悟しなくてはならない。さいわいにそんなことがなくとも、見られることだけは見られてしまうのである。そしてそれを、いつまでも憶えられているのである。

イギリス人たちは、使用人のことを人間だと認めないそうである。役に立つかしこい動物だと思っているそうである。だから、女中の前でハダカになることも、何をすることも平気だという。

なるほど、それは現実的な考えかもしれない。自分の目下のものを動物だと思いこむことは、そうむずかしいものではない。しかし、いくら熱心に信じこんでみても、自分一人が信じただけでは、女中や下男が実際に犬やネコに変わってしまうものではない。やっぱり人間はどこまでも人間である。

主人をモデルにして暴露記事を出版することは法律によって禁じられているかもしれない。また主人のことをいいふらして歩く女中たちはクビになったり罰せられたりするかもしれない。しかし、クドいようだが、見られることは見られてしまうのである。僕の先輩のS氏の家では、オシの女中さんをやとっているが、それでも彼女は、手マネでしょっちゅう、S氏のウワサを近所となりへ触れ歩くそうだ。

ギリシャの奴隷イソップは、キツネやウサギやライオンにたくして、教訓にとんだ物語をのこした。ウサギがカメに追いぬかれるはなしや、金の卵を生むニワトリのお腹を割ってみたら、金は入っていなくてトリは死んでしまったというお話は、みんな彼が主人の生活を穴のあくほど覗きこんで、そこから生まれた物語である。

あんまり口が悪くて、タチの悪いたとえ話ばかりを書くので、とうとうイソップは主人の手にかかって殺されたけれど、彼がつくったお話は、まだ人の口から口へつたえられて、世界中にひ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com